

1. 青木村総合戦略の評価と延長改定の視点 ～国の改定総合戦略及び現・青木村長期振興計画の重点推進プロジェクトを踏まえて～

青木村の総合戦略の評価と課題	国の総合戦略の基本目標の改定ポイント	青木村総合戦略の基本目標と改定・強化の視点	改定戦略における具体的な施策展開の視点
<p>定住人口 →減少率は依然として高い：×</p> <p>自然増減 →H28以降自然減の比率は減少：○</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>出生数（出生率） →H28以降漸増：○ ＜課題＞ ・安心で魅力的な子育て環境の提供</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>死亡数（死亡率） →H28以降漸減：○ ＜課題＞ ・健康寿命の延伸</p> </div> <p>社会増減 →社会増減はプラス：○</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>転入数（転入率） →H28以降漸増：○ ＜課題＞ ・良好な住環境や職場の確保</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>転出数（転出率） →H28以降漸増：× ＜課題＞ ・UJIターンの促進</p> </div>	<p>基本目標 1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする ↓ <u>稼ぐ地域をつくる</u>とともに、安心して働けるようにする</p> <p>基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる ↓ <u>地方とのつながりを築き</u>、地方への新しいひとの流れをつくる</p> <p>基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ↓ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>基本目標 4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する ↓ <u>ひとが集う</u>、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p>	<p>基本目標 1 青木村らしい仕事づくり</p> <p>＜改定・強化の視点＞ ・地域資源のブランド化 →農産物資源の6次産業化 ・良好な景観・環境と調和した職場づくり →適正な場所への企業誘致</p> <p>基本目標 2 青木村らしいひとの流れづくり</p> <p>＜改定の視点＞ ・既存の施設・建物の最大活用 →道の駅機能強化、空家活用 ・都市とのつながり強化 →様々なかたちで地域に関わる関係人口の拡大</p> <p>基本目標 3 青木村らしい次世代づくり</p> <p>＜改定の視点＞ ・保・小・中一貫教育の魅力化 →学び場としての地域の活用 ・地域による子育て・教育支援体制の強化 →地域の語り部（場）づくり</p> <p>基本目標 4 青木村らしいゆとりづくり</p> <p>＜改定の視点＞ ・医・福・食・農連携 →新技術等の積極的な活用 ・安心の見える化 →必要なハード整備とソフトの取り組み強化</p>	<p>青木村長期振興計画 重点推進プロジェクト</p> <p>①道の駅あおき高機能拠点化プロジェクト ②国道143号青木峠新トンネル整備プロジェクト ③あおきっ子小・中学校全学年2クラスプロジェクト ④健康寿命延伸プロジェクト</p> <p>■第一段階 ・タチアカネ蕎麦を活かした産業展開 ・重点プロ2の道路整備効果を期待する企業の先行誘致</p> <p>■第二段階 ・タチアカネ蕎麦関連産業の地域への定着 ・地域の良い自然環境・景観を守りつつ、重点プロ2の道路整備効果を活かせる企業誘致</p> <p>■第一段階 ・重点プロ1の道の駅あおきのリニューアル機能の最大活用 ・五島慶太未来創造館を新たな起点とした魅力発信</p> <p>■第二段階 ・「農」を資源にしたメニュー・プログラムの開発（重点プロ1の道の駅を拠点にして展開） ・各拠点・起点からの交流促進</p> <p>■第一段階 ・五島慶太未来創造館を活かした学びの導入（併設の図書館・資料館の利活用促進） ・豊かな自然環境・農業環境の活用</p> <p>■第二段階 ・少人数制教育の実現→重点プロ3の小学校全学年2クラス化 ・教育村として（あおきっこ教育）のブランド化</p> <p>■第一段階 ・重点プロ4の一環として、タチアカネ蕎麦の健康への効用活用 ・重点プロ1の道の駅あおき及びその周辺を活用した食農体験の場・プログラムの展開</p> <p>■第二段階 ・重点プロ2の整備効果を活かした松本医療圏（信大病院など）との連携 ・救急医療・災害対応で広域的な地域間共助体制の強化</p>
<p>多様な人材の活躍を推進する</p> <p>新しい時代の流れ（Society 5.0、SDGs）を力にする</p>			

2. 青木村総合戦略延長改定のポイント整理 ～次期青木村長期振興計画策定（総合戦略と統合化）までの懸け橋となる2か年の戦略～

重点推進プロジェクト その1 道の駅あおき高機能拠点化プロジェクト

道の駅あおきのリニューアルした機能及びその周辺部を活かしていく

平成30年度に拡張再整備を完了する道の駅あおきを青木村の核として位置付け、雇用の創出、ひとの流れの拡大、人口減少の克服さらには地区住民の参画の促進につながる施設とすべく、ふるさと公園あおきと一体的に高機能拠点化を図ります。

- 雇用の創出
- ひとの流れの拡大
- 人口減少の克服
- 地区村民の参画

評価指標	現状	目標（令和3年）
年間総売上額（農産物直売所）	147百万円：H27（1～12月）	200百万円
年間総来客者数（農産物直売所）	92千人：H27（1～12月）	150千人

基本目標1 青木村らしい仕事づくり
＜次の10年を見据えたこの2年間の取り組み＞

- テーマ
食と農、みどりと景観の魅力で職を生み出す
- 重点施策
① タチアカネ蕎麦のブランド化促進
② 適正な場所への企業誘致
- 令和3年の左記+KPI（評価指標）
・固定資産税の増加（令和元年比）

重点推進プロジェクト その2 国道143号青木峠新トンネル整備プロジェクト

事業完了年次を見据え、その効果を最大限に活かすための準備を進めていく

青木峠新トンネルの整備により、国道143号を上田、松本・安曇野間を最短時間で結ぶ（現行より21分短縮）新たな東西基幹軸にして、青木村の立地ポテンシャルを高め、企業誘致や移住・定住の促進、地域経済の活性化、観光振興、村民生活の安全・安心の確保につなげます。

- 地域に大きな雇用を生み出す企業の誘致
- 松本都市圏の通勤・通学圏化に伴う移住・定住の促進
- 道の駅あおきの利用者増による地域経済の活性化
- 広域のかつ幅広い連携による観光振興
- 村民生活の安全・安心の確保

評価指標	現状	目標（令和3年）
国道143号青木峠新トンネルの整備に向けた進捗状況	県による事業化（H31）調査段階（県）：H28	早期着工に向けて周辺環境整備並びに支援体制の構築
年間観光地延利用者数 ^{注1)}	231百人：H27	250百人
年間観光消費額 ^{注1)}	134,200千円：H27	150,000千円
国道143号自動車交通量 ^{注2)}	6,485台：H28.3.8	6,600台

注1) 長野県観光地利用者統計調査における青木村の対象観光地（田沢温泉・沓掛温泉）の合計
注2) 上下線合計、地点：道の駅あおき前・上田寄り、日時：3月上旬・平日12時間（7～19時）

基本目標2 青木村らしいひとの流れづくり
＜次の10年を見据えたこの2年間の取り組み＞

- テーマ
基幹軸の拠点・沿道の攻めと守りで人を呼び込む
- 重点施策
① 道の駅あおきと五島慶太未来創造館の2つの核施設のPR、相乗効果及び周辺施設への波及の発揮
② 景観条例の適正運用・土地利用ルールの検討

重点推進プロジェクト その3 あおきっ子小・中学校全学年2クラス化プロジェクト

五島慶太未来創造館及び隣接施設の学習・交流機能を最大限に活用していく

村づくりの原点は人づくりです。小中学校の全学年で2クラス化を目指すことを旗印に、婚活から結婚・妊娠・出産・子育て・教育・就職に至るまでトータルな支援を展開していくことによって、「子育て・教育の場」としての青木村の魅力をより一層高め、次代を担う若い世代の移住・定住につなげます。

- 学校教育の魅力向上
- 移住（UJIターン）したくなる村づくり

評価指標	現状	目標（令和3年）
小・中学校において児童・生徒が36人以上の学年数 ^{注3)}	小学校→4/6学年：H28 中学校→1/3学年：H28	小学校→6/6学年 中学校→3/3学年
直近5年間の出生数の合計 ^{注4)}	127人（H23～H27）	150人（30人/年）
直近5年間の社会増減数の合計 ^{注4)}	11人（H23～H27）	75人（15人/年）

注3) 学校基本調査による（1学年につき36人以上の児童・生徒が確保されれば2クラス編成となる）
注4) 長野県毎月人口異動移動調査の市町村別移動状況（各年）による各年の数値の合計

基本目標3 青木村らしい次世代づくり
＜次の10年を見据えたこの2年間の取り組み＞

- テーマ
この地で子どもを産み、育てたくなる場をつくる
- 重点施策
① 五島慶太未来創造館の活用プログラムづくり
② 青木村の魅力発信人材の育成
- 令和3年の左記+KPI（評価指標）
・五島未来創造館の利用者数の漸増

重点推進プロジェクト その4 健康寿命延伸プロジェクト

ブランド化を進めるタチアカネ蕎麦の効用を活かした取り組みを進める

健康でいることは誰もが望むことであり、健康であれば様々な社会活動の意欲が高まり、村の活性化にもつながります。長寿県といわれる長野県の中で、現在の青木村の健康寿命は約79歳で県の平均値と同程度の水準にあります。今後は、この「健康寿命」を村の活性化の一つのバロメーターとして捉え、県が進める信州ACEプロジェクトとも連動して、健康の維持・増進に資する各種取り組みを推進します。

- 健康づくりの実践活動の全村的な普及啓発
～Health Promotion～
- 高齢者の「生きがい」づくり
～Purpose in Life～

評価指標	現状	目標（令和3年）
健康寿命 ^{注5)} ()内は95%信頼区間	男性→79.42(76.42～82.43)歳：H22 女性→80.92(76.58～85.32)歳：H22	男性：81歳± 女性：82歳±
地域支え合い事業立ち上げ地区数	9地区	12地区

注5) 長野県健康福祉部資料（H27.4.17）による0歳健康寿命で、H22の国勢調査をベースにしているため、H27の国勢調査に基づく最新数値が公表された段階で現状及び目標の設定値の見直しの必要あり

基本目標4 青木村らしいゆとりづくり
＜次の10年を見据えたこの2年間の取り組み＞

- テーマ
① 地域を愛し、元気に・豊かに・健やかに
② 自助・共助・公助で安心が見える村をつくる
- 重点施策
① 健康寿命延伸計画の周知・促進
② 便利で安心な新公共交通サービスの提供
③ 災害時行動・対応マニュアルの共有

「日本一住みたい村づくり」から

次の10年 「誰もがここにきてよかつた・住んでよかつた」と実感できる村づくりへ
包括的なKPIその1 「交流人口・関係人口」の増加
包括的なKPIその2 「定住人口」の増加